

「SAJ 競技会 新型コロナウイルス感染対策ガイドライン」に基づく対応

1 基本事項

新型コロナウイルスの感染経路は、くしゃみや喀痰などの飛沫が目や鼻、口などの粘膜に付着したり、呼吸器に入ることによって感染する飛沫感染が主体と考えられている。また、喀痰や鼻水などの体液及びそれらで汚染された環境に触った手で目や鼻、口などの粘膜に触れることによって感染する接触感染もあるため、以上2つの経路の感染予防策を徹底する。有症者が感染伝播の主体であるが、無症状病原体保有者からの感染リスクもあるため、常に予防を意識する。

●飛沫感染予防

- ・選手、スタッフ、観客は原則マスクを着用することとし、咳エチケットを徹底する。
- ・飛沫は空気中を漂わず、空気中で短距離1～2mしか到達しないため、人と人との距離1～2m四方を確保することとし、屋内では換気を徹底する。

●接触感染予防

- ・流水と石けんによる手洗い若しくは擦式アルコール消毒薬（推奨アルコール濃度60%～80%）による手指衛生の励行。（アルコールによる手荒れはウイルスが手に残る原因となるため、ハンドクリームで保湿するとよい。）
- ・アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含浸クロス（推奨アルコール濃度60%～80%）でテーブル、ドアノブなど高頻度接触部位の清拭消毒を行い、清掃を行う場合は、手袋、マスクを着用する。

※換気について：必要換気量1人当たり毎時30m³を満たす場所を前提に毎時2回以上（数分間程度、窓を全開する。

）部屋の空気を全て外気と入れ替える。開窓による換気は二方向以上で行い、風の流れることができるように施設状況に合わせて工夫する。

2 選手・関係者の皆様に守っていただきたい事

(1) マスクの着用について

- ① コーチ、審査員、スタート地点のスタッフ等選手の近くで活動する者は常時マスクを着用すること。マスクを外した選手と会話することで目の粘膜に飛沫が飛ぶ可能性を考慮し、フェイスガードやゴーグル、サングラス等も装着することが望ましい。
- ② マスクが汚染や水濡れ等で使用できなくなることを考慮し、替えを持参すること。
- ③ 使用済のマスクは会場で破棄せず、自身で持ち帰ること。

(2) 手指消毒について

- ① 更衣室、トイレ、洗面所等各エリアに出入りする前後での手洗い、手指消毒をすること。
- ② 目、口、鼻の粘膜からの感染リスクがあるため、ゴーグルやフェイスマスク、ヘルメットは清潔に管理し、装着前後で手指消毒を行うこと。
- ③ ドアの取っ手、自販機のボタン、椅子、テーブル等に触れる前、触れた後は手指消毒を行う。

(3) 大会前の健康管理について

大会前2週間において以下のいずれかの事項に該当する場合は参加を見合わせる事。

- ・発熱（37.5℃以上）を認める。
- ・せき、のどの痛みなど風邪の症状がある。
- ・だるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある。
- ・嗅覚や味覚の異常がある。
- ・体が重く感じる、疲れやすい等の症状がある。
- ・新型コロナウイルス感染者との濃厚接触歴がある。
- ・同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染が疑われる方がいる。
- ・参加14日前までに政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航歴がある又は当該在住者との濃厚接触歴がある。

(4) その他大会当日の留意事項について

- ① 大声での会話や指導は避け、常に1～2mの対人距離をとって行動する。
- ② 入場前に体調不良となった場合は、会場内に入場せず帰宅するか、判断に迷う場合は大会事務局に申告する。
- ③ 会場内で体調不良となった場合は、近くの大会スタッフに申告し、移動せずにその場で指示を待つ。
- ④ 頻回の入退場は控えること。
- ⑤ 使用禁止エリアへの立入りはしないこと。（大会前後での消毒範囲や、大会終了後に陽性者が発生した場合の接触部位特定に影響を及ぼすため。）
- ⑥ 私物は可能な限り持参した袋に入れて管理すること。（目の届かない間に他者の飛沫がかかったり、自身の飛沫が付着した私物で環境を汚染するリスクを最小限にするため。）
- ⑦ 大会終了後、集合しての打ち上げやミーティングは禁止する。
- ⑧ 大会主催者、施設管理者が定めたその他の措置、指示に従うこと。

(5) 大会後

大会後2週間以内に体調不良となり「新型コロナウイルス感染症」の疑いが生じ、又は発症した場合、速やかに大会事務局まで連絡すること。